

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 8 2004 年 4 月 30 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■ ポリコム、VSX3000、ワイヤレス SoundstationW2 をリリース



VSX3000

米ポリコム社は、デスクトップ向けテレビ会議システム、「VSX3000」をリリースした。ワシントン DC で 4 月 19 日、20 日開催された、Annual Summit Meeting on the Applications of Broadband Internet にて展示していた。展示ブーススタッフに話を聞いたところ、VSX3000 は、セットトップタイプの VSX7000 と比較して、フォームファクタの違いと、デスクトップ向けであるという違い以外では、基本的に機能、性能においては変わりがないという。また、日本市場出荷について聞いたところ、「若干のタイムラグはあるが、多分日本市場についても近いうちに出荷を開始するだろう。」と説明していた。

VSX3000 の特筆すべき点は、まず、17 インチ液晶モニターのフォームファクタで、IP の 2Mbps を基本インターフェイスに、ISDN BRI (日本の INS64 に相当) を 4 本収容し、ISDN 環境では、512kbps の通信の機能をコンパクトにまとめているということ。さらに、内蔵 MCU を搭載している。ミッドレンジクラス以上のテレビ会議システムに匹敵する性能で、価格は、IP のみのベースモデルで、4990USD、ISDN などに対応したモデルが、6500USD くらい。暗号化である AES に対応

し、「コストパフォーマンスが高い。」(説明員) 製品作りとなっている。

モニター画面の裏側には、各種インターフェイス、つまり、IP、ISDN のインターフェイス、音声出力、入力などが下側に向くような形で設計されている。

テレビ会議のコーデック部分については、最新の映像符号化である、H.264 をサポートし、限られた帯域の中で映像品質の高い通信が行える。

VSX7000 などの同社のセットトップテレビ会議システムは、カメラが自動追尾する機能があるが、この「VSX3000」は、デスクトップで一人から少人数が使用することを想定しているため、手動で動かすという作りになっている。

さらに、興味を持った点としては、この VSX3000 が、PC の液晶モニターとしても使えるという点。カタログにはデスクのスペースを節約できると書かれている。モニターのサイズは、17 インチ。ビジネスオフィスで一般的に使われているモニターサイズ。通常は、PC モニターとして使うことができ、必要に応じて、テレビ会議もそのまま行える。画面の上側には、カメラ部が配置され、画面の下側には、スピーカーや各種操作ボタン、赤外線受光口がある。リモコンは同社のテレビ会議システムで汎用的に利用されている、リモコンを使って操作が行える。

また、新たに、コードレス対応の「SoundstationW2」を北米市場にリリース。上記ワシントン DC で開催された展示会では、展示されていなかったが、WDCT 方式 2.4Ghz のコードレス無線によって、400m までの範囲で自由に持ち運びができる。通話時間は、24時間まで、待ち受けは、160 時間までサポートしている。(EX モデルと、ベーシックモデルにオプションを付加した場合)、ベーシックモデルは、12 時間までの通話時間と、80 時間までの待ち受け時間。64 ビットの音声暗号化、オートゲインコントロール、ダイナミックノイズリダクション (DNR)、ミニ USB による、ソフトウェアアップグレード、外部マイクを 2 個接続可能 (オプション) などが主な特長。アナログ回線対応。また、携帯電話と接続することにより、固定のアナログ回線がない場所でも、携帯電話を通じた電話会議も行える。マイクの感度は、

既存の Soundstation の倍はよくなっているという。日本での販売代理店は、日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)、プリンストンテクノロジー(東京都千代田区)、大塚商会(東京都千代田区)などがある。

■ラドビジョン、フランステレコム開発の PC 向けテレビ会議ソフト販売開始

イスラエルのテレビ会議MCU等を開発販売する、ラドビジョン社が、H.323 と SIP に準拠した、PC テレビ会議ソフト「eConf(イーコンフ)」の再販契約をフランステレコムと締結した。eConf は、フランステレコムが開発した。今後、世界各地のラドビジョンのセールスチャネルで、テレビ会議多地点接続装置(MCU)とのバンドルしたソリューションをふくめ販売していくことになる。

eConfは、テレビ会議業界でも定評のあるソフトウェア。ハイクオリティな音声と映像とともに、CPU の使用を最適化する機能、エコーキャンセレーション、エイリアス・ダイヤリング、QoS、帯域設定、高度なゲートキーパー機能のサポート、アドレスブック機能などを含む、ビジネスクオリティを追求したソフトウェアの作りとなっている。

ラドビジョンは再販するにあたり、2モデルの eConf をリリースする。ひとつは、eConf スタンダード(89USD)で 384kbps まで対応したもの、そしてもうひとつは、eConf PRO(119USD)で、768kbps までサポートしている。両者とも、H.323 と SIP、両方に対応する。

フランステレコムは現在、音声とビデオ技術関係で 30 以上もの特許を持つが、この eConf は、ラドビジョンが提供した SIP と H.323 プロトコルスタックをベースとした開発プラットフォームを利用することにより、製品として開発されている。

サポートされている、映像符号化は、H.261、H.263、H.263+で、ビデオフォーマットは、CIF と QCIF。音声符号化方式は、G.711、G.722、G.723.1。ドキュメント及びアプリケーション共有の標準である、T.120 もサポートされている。

(編集長橋本のコメント)

編集長橋本が、数年前だったかラドビジョンの担当者に、エンドポイント製品もラドビジョンとして出す予定はあるのかという質問をしたことがある。その時の答えは、「可能性としては非常に面白いが現時点ではわからない」というよう

な趣旨のものだった。上記の返答のニュアンスからして、ラドビジョン自身は、数年以上前からこのエンドポイント製品の可能性は考えていたと思われるが、その時点では近々の必然性は特に感じてはいなかったのではと推察する。つまり、ラドビジョンとエンドポイントメーカーとの、ある意味で棲み分け的、または補完的な関係が確立していたからだ。

しかし、市場の状況は変化し、最近はもともとエンドポイントメーカーだった企業、つまり、ノルウェーのタンバーク社、イスラエルの VCON 社、またポリコム社(ボヤント社*の買収、何年か前の ACCORD**の買収など)などが、エンドポイントだけでなく、MCU 製品などを製品ラインナップに加えてきた。

要するに、ラドビジョンが得意とする分野に入りつつある状況がでてきたということ。トータルソリューション的なアプローチへシフトするエンドポイントメーカーが増えてきた。

そして、同社が重視する中国市場では、エンドポイントだけでなく、MCU メーカーなどがぞくぞく出てきている状況もある。規模などで日本市場を既に超えて市場は急拡大している(例えばテレビ会議端末市場は、Wainhouse Research の統計によると、2003 年は 16,000 台で日本の倍。)。やはり、中国メーカーである、Huawei、ZTE、Sino、などエンドポイントから MCU、ゲートキーパーなどフルラインナップを揃えていて、なおかつ

(次頁へ続く)

*ボヤント社・キャリア向け音声 MCU 開発メーカー
** ACCORD 社・テレビ会議 MCU 開発メーカー

<広告>トータル・ビデオ会議システム



<広告>イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語): 日本地方自治体等導入実績あり、PC タイプのテレビ会議システムからセットトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。テレビ会議メーカー、大手 5 社に入る。

H.323 対応 PC 用会議システム vPoint

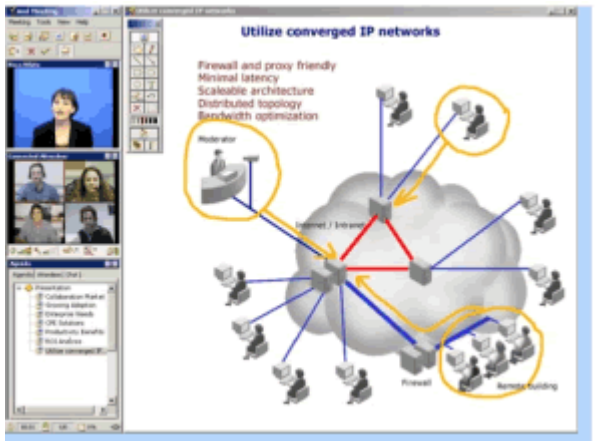
VCON <http://www.vcon.com>

価格も欧米企業に比べ安いとなると、ラドビジョンとして、MCU やゲートキーパーなどの開発だけに特化している状況ではなくなってきたのかもしれない。

ラドビジョンは、今回の eConf を足がかりに、長期的には、エンドポイントメーカーが取りつつあるトータルソリューション的な方向へ進みつつあるのではないかと予想する。しかし、当面ハードウェアテレビ会議メーカーとの直接対決的な状況はさげつつ、PC 向けのテレビ会議を中心としたエンドポイントの部分を強化していくのではないかと予想する。

ちなみに、eConf 技術を使った PC 向けテレビ会議システムとして、トーマンサイバービジネス(東京都港区)の、Visual Nexus がある。

■Arel、オールインワン・ウェブ会議システム



ウェブ会議ソリューションを提供する、Arel Communications 社は、イスラエルに本社を持つ企業。NA SDAQ 上場企業(1994年12月)。アメリカには、アトランタとニュージャージーに拠点があり、ヨーロッパには、フランスに拠点を持つ。

Arel(アーレル)社が開発、販売するウェブ会議システムは、ワークグループ向けの「Spotlight Meeting」、講演やセミナープレゼン向けの「Spotlight Webinar」、そしてインストラクターなどが遠隔から指導したりする、遠隔教育向けの「Spotlight Campus」の3種類のシステムがある。

これらのウェブ会議システム製品は、同社が提供するICP(統合型カンファレンス・プラットフォーム)をベースとしている。統合型カンファレンス・プラットフォームは、IPネットワーク上で、シンクロされたリアルタイムの音声、ビデオ、データコミュニケーション機能を実現するため、スケーラブルで、

セキュア、ネットワークフレンドリーに構築されたプラットフォームである。

3種類のシステム製品は、ICPをベースに開発されているため共通のインターフェイスを持つが、それぞれのシステムは、それぞれの製品目的に最適化されて設計されている。

ウェブ会議システムに見られる基本的な機能はもっており、アプリケーション共有、ホワイトボード機能、チャット機能(パブリック・プライベート)、投票機能(質問の作成、投票結果のグラフ化など)、ミーティング録画機能などがある。スライド、ウェブページ、ドキュメント、ムービークリップなどは、ウェブ会議中であっても、簡単に呼び出せ、参加者で共有が簡単にできる。また、資料共有時の遅延にも強く、スムーズな会議が行える。セキュリティについては、SSL、HTTPS などでセキュアな環境で会議が行える。

また、低ビットレート帯域でも効率よく稼働するシステムで、30Kbps での帯域でもウェブによるコラボレーションが行える。今後 2004 年第三四半期には、H.323、SIP に対応するため、既存の H.323 対応のテレビ会議端末との通信も可能になるようだ。

会議の予約管理など、は、Spotlight Portal で簡単に行うことができる。会議は、トピックネームを入力して、スタートボタンを押せば簡単に会議が開始できる。

【編集長橋本のコメント】

Arel は、ワシントン DC で開催された、Broadband Summit 2004 に出展しており、その会場で、ビジネス開発・製品戦略担当副社長の Ofer Shapiro 氏に、橋本が直接伺ったところ、今年の暦月で第三四半期に、H.323、SIP に対応する予定と述べた。H.323 に対応するということは、既存のテレビ会議システムとの通信が行えるということになる。

現在で H.323 に対応している、PC 系ウェブ会議は、米 FVC 社の ClickToMeet、日本のトーマンサイバービジネスが販売している、Visual Nexus などがある。

Ofer Shapiro 氏は、今年1月から同社で勤務しているが、前職は、ラドビジョン。略歴を見ると、標準化にも従事した経験があるようだ。製品戦略のトップである同氏からすると、Arel のウェブ会議が H.323 や SIP に対応するというのは同氏の標準化に対する強い思い入れが込められているのではないかと推察する。

また、会場では、CMO(最高マーケティング責任者)である、Michelle A Blank 氏から Arel の製品概要とデモを行って貰った。IPC のプラットフォームをベースに開発された、同社製品に対して強い自信を見せる。同氏も、今年1月から Arel に勤務しているが、前職では、ラドビジョン US のトップだった。

ショートニュース

- ◆ イスラエルのウェブ会議メーカー、Arel は、フランスに参入した。フランスの会議コラボレーションのソリューションを提供している、COMIRIS Technologies 社と提携し、フランス企業への AREL の Spotlight、ビジネスミーティング仕様のウェブ会議を販売していく。
- ◆ 英 MotionMedia 社、オーストリアの Scotty 社の買収計画を発表。MotionMedia 社は、今後資金調達と、6月に予定している臨時株主総会に買収計画を付議し了承されれば、Scotty 社の全株式を 1050 万英ポンド(約 20 億円)で取得する。その後、今年 2004 年の Scotty 社の業績次第分によるもの(最大 3850 万英ポンド(約 42 億円)、現金か株式発行による。)もある。Scotty 社の 2002 年度の売上げは、1150 万 EURO(約 12 億 7 千万円)。今回の買収理由について、両社のそれぞれもつ強み(ソリューションや販売チャネルなど)が相互補完的であるということでシナジー効果が見込めると見ている。
- ◆ 英 MotionMedia 社の、テレビ会議システム、mm745 のソフトウェアアップグレードを発表。バージョンは、2.0。操作性の向上、セキュリティの強化、音声符号化方式の追加などが 2.0 に、追加されている。無償でダウンロードが可能。



mm745

- ◆ 独シーメンス社は、米 WebEx 社のウェブ会議機能を、シーメンスの OpenScape コミュニケーション・スイートに統合すると発表した。OpenScape は、リアルタイム・コミ

ュニケーションソフトウェアスイートで、WebEx 社との連携により、OpenScape のコミュニケーション環境からワン・ボタンで簡単にウェブ会議セッションを開始することができるようになるという。

- ◆ 米 Centra 社、ナイジェリアへ参入。米 Centra 社は、ナイジェリアで、通信サービスなどを提供する、T3 社と提携した。T3 社は、Centra 7 などのウェブ会議ソリューションを販売、トレーニングサポート、24 時間のサポートサービスなどを提供する予定。
- ◆ 米 Centra 社は、テレビ会議、電話会議、ウェブ会議サービスを提供する、米 Video Guidance 社と提携し、Video Guidance 社は、Centra のウェブ会議機能を使った ASP サービスの提供、Centra をインストールした顧客のサーバーホスティングサービス、あるいは、顧客ネットワーク内の Centra サーバー設置に対するサービスなどについて対応する。日本では、マクニカ(神奈川県横浜市)が販売代理店。
- ◆ イタリアのテレビ会議メーカー、アエスラ社は、米 VSIG (Visual Systems Integration Group) 社と、アエスラ製品についてディストリビューション契約を締結した。アメリカの中部大西洋から、南東部のエリアをカバーする。VSIG 社と提携するリセラーによってアエスラ社製品が販売される。
- ◆ 米エゼニア！社(旧ビデオサーバー社)の発表によると、米の国防省諜報庁とのライセンス契約が更新となったと発表した。エゼニア！社は、ウェブコラボレーションソリューション InfoWorkSpace を開発販売している。同社は、旧ビデオサーバー社時代、多地点接続装置 MCU 市場の開発で先駆けとなり、一時は、MCU のトップメーカーであった。
- ◆ イスラエルのテレビ会議メーカー、VCON 社は、マイクロソフトの認定ゴールドパートナーである、Econium 社と提携し、VCON の IP テレビ会議技術とマイクロソフトの会議コラボレーションツールとを統合したカスタムソリューションを共同で開発提供していく。VCON 社の日本の代理店は、日本システムウェア(東京都渋谷区)など。
- ◆ VCON 社の増資手続きにより、株主からの 1000 万 USD(約 11 億円)の払い込みが完了した。約 1488 万株の普通株が発行された。1株当たり、67US セント。今回の発行株数は、発行済み株式数 3200 万株余りの 46.5%を占める。大株主として、Index Ventures 社(24%)、Pitango 社(22%)がある。(CNA リポート・ジャパン Vol. 6 No.2 2004 年 1 月 31 日参照)

海外レポート

Broadband Summit 2004

Annual Summit Meeting on the Applications of Broadband Internet

日程: 2004年4月19日、20日

場所: ロナルド・レーガン国際貿易センター
米国ワシントン D.C.

アメリカワシントン DC で、Broadband Summit 2004 が開催された。今回の BB2004 は、展示会とセミナーセッションの構成で、4月19日、20日と2日間開催された。主催したのは、昨年で終了した、アメリカの TELECON を 22 年間、主催してきた Patrick S. Portway 氏(写真下)。TELECON は、テレビ会議、電話会議などの専門とした有名な展示会。1980年の始め頃から開催されてきたが、2003年4月の開催の中止をきっかけに残念ながらそれ以降開催の予定は聞いていない。編集長橋本は、1999年、2000年と参加し、いろいろな製品をこの目でみて触って、いろいろな質問をした記憶がある。



セキュリティの厳しいアメリカ

本題に入る前に、アメリカ入国時に気づいたことだが、アメリカ全体的に最近では空港や重要な建物にはセキュリティチェックが非常に厳しい。空港の入国審査では、人によって指紋や顔の写真をウェブカメラで一人ずつ撮影していた。私は幸い(?)、滞在の目的と何の仕事をしているのかと聞かれたただけだったが。

また、今回の会場入口では、セキュリティガードがいて、入口で身分証明書を見せてくださいと言われ、パスポートを見せ、持ち物を空港にあるような赤外線カメラに荷物を通し、チェックを受けた。また、今回ニューヨーク経由でワシントン DC に入ったが首都圏30分以内の飛行機内では席から立ってはいけないという法律があり、機内でも厳重な様子がかがわれた。

Broadband Summit 2004 本論へ



VIP ディナー

最初の19日は、VIPディナーとして、リセプションとディナーが続き、インターネットの生みの親である、ビント・サーフ氏の特別講演。ブロードバンド普及を阻むものというテーマで、FTTHのコスト高やパケットの仕組みについて説明。短い時間の中、同氏の講演があった。

20日には、ブロードバンドをどう国内(アメリカ)に普及させていくのかという観点から、米国下院議員の Rick Boucher 氏を始め、メーカー、サービスプロバイダー、大学教授など 29名の講演者による発表があった。

また、テレビ会議、ウェブ会議業界関連の講演者としては、ポリコム CEO Bob Hagerty 氏や、Arel CMO の Michelle A. Blank, Ph.D. の講演もあった。

会場では各社の展示、業界関係では、ポリコム、ソニー、AREL, Spectel, VBrick などが展示していた。

VoIPとセキュリティの問題

米国下院議員の Rick Boucher 氏の朝食を交えた講演は、予定より若干遅れて朝 8 時から始まったが、ブロードバンド環境では、VoIP のサービスが普及していきだろうし、キラーアプリケーションになりえると述べ、たとえば、月額 20USD 程度で、VoIP が無限に利用できるという方法がとればベストだとの見方を示した。また、VoIP が普及した場合セキュリティの問題が重要になるとの指摘、そして、今後さらにブロードバンドを普及させていくためには、遠隔医療、遠隔教育などの新しいアプリケーションの開発と促進も重要ではないかと講演していた。

ブロードバンドは経済力向上への原動力 国際競争力には必須

つぎに、ケンタッキー大学学長の Dr. Lee T. Todd 氏の講演では、ブロードバンドの普及は経済力向上への原動力として必要であり、ブロードバンドへのアクセスがあるか、ないかで今後経済格差が生じる可能性があるとの予想を示した。

また、諸外国のブロードバンドの普及に言及しながら、グローバルマーケットで競争に伍していくには、ブロードバンドは必須だと指摘。また、最近のケンタッキー州でのブロードバンド関係の動きについて説明し、ケンタッキー州では、ブロードバンドを規制する法律を禁止する法律が最近州議会で通ったそうだ。

ケンタッキー州では、地域的、経済的なギャップを乗り越えるためにブロードバンドは必須とみており、さまざまな取り組みが、遠隔教育などで行われている。

例えば取り組みの一つとして、図書館での貸出本をオンラインで申込、宅配などで翌日配送するというのがある。また、健康関係の各種統計でケンタッキー州は全米でワーストに入っているそうで、通信費などの問題もあるが、ヘルスケア分野に対してブロードバンドを適用していくことを検討している。技術の問題よりも規制の問題がブロードバンド普及を考える上では大きいと同氏の考え。

ブロードバンドのコモディティ化が進む 規制が技術の現状に対応しきれていない 投資環境の醸成と、利益が共有できる環境が必要 アプリケーションの開発が急務

また、その他の講演では、ブロードバンドはコモディティ化していると述べた、ブロードバンドサービスを提供する Hughes Network Systems の John Kenyon 氏。同氏は、ブロードバンドサービスでの顧客の囲い込みの難しさを指摘。たとえ利用契約を取ったとしても、最初の1ヶ月で解約されたり、あるいは最初の契約期間が終わる時に解約されたりといったことが多く、ロイヤリティが低いのが課題という。しかし、安くオロティの高いサービスを提供することは重要と考える。

Verizon の Thomas J. Tauke 氏からは、VoIP のブロードバンドアプリケーションは、電話とは違うので、政府の政策担当者は、ネットワークの現状を知るべきだとの厳しい指摘

があった。法律などの規制は、現状を反映した規制であるべきだが、現状は、現在の技術の動向に対応しきれていない問題があり、古いルールを新しい現状に当てはめているだけだと指摘。

さらに、光アクセスなどを視野にいれた、インフラへの投資が重要で、そのためには投資環境の醸成と、今後政府の助成、規制のあり方が、FCC を中心にして議論されるところだろうと今後の展開を示唆した。

その他の講演者も政府の規制問題を言及する発言が多かった。現状を反映した規制となっていないとの見方の中で、BellSouth の William Smith 氏は、FTTC と FTTH はそれぞれ違う法律が適用されているとたとえて出した。そういった現状にそぐわない規制のあり方はブロードバンドの普及から考えると問題ではないかと力説。情報化社会には、先進的なインフラが必要と強調した。

さらに、Internet2 の社長兼 CEO の Doug Van Houweling 氏は、第二次大戦後、技術革新が経済発展を推し進めていく上で重要な要因(経済発展を推し進めた要因の50%は技術革新という言い方だった。)であったため、技術革新という意味でのブロードバンドの普及は今後重要な意味を持つという趣旨の話があった。

そして、ブロードバンドに対しての投資を進めていく中で、その投資による利益を共有できる環境を作り出す必要があるとの見方を示しながら、アプリケーションの開発の重要性を力説した。また、アプリケーションのひとつとして、3次元にシミュレートされた、バーチャルミーティングルームの可能性についても言及した。

次に、米国教育省で教育に使われる技術について担当する、Susan Patrick 氏の講演では、時間の都合上5分程度の講演となったが、今後はブロードバンドアクセス(ブロードバンドインターネットに接続することができるということ)の問題が重要と見る。教育分野では、e-learning が重要なアプリケーションになると思われるが、教育分野だけでなく、さまざまな分野で、ブロードバンド政策を策定し遂行していく重要性を指摘した。

The New World Symphony Demonstration 次世代ブロードバンドを使った演奏

Internet2は、世界 206 の大学が参加する、次世代インターネット技術の開発・検証を目的とする組織。会場では、遠隔

演奏指導のデモを、次世代ブロードバンドインターネットを使い実演した。ワシントンDCの会場には、10名ほどの若手指揮者と演奏者が音楽を演奏し、その様子を見ながら、シアトルにいる先生が指揮者などを指導しアドバイスを遠隔で行うという内容。

遠隔であっても、スムーズに演奏指導などが行えるところを披露。先生が指揮者に対して、肩がこわばっている、もっと肘あたりをリラックスさせて肘から手先にかかる腕で指揮棒を振った方が、良いというようなアドバイスをしていた。将来の遠隔教育の一面を、垣間見せる非常に興味を持てるデモであった。(これは写真を撮っておけばよかったと今に思う。)

遠隔医療—1967年ボストンの交通渋滞を避けるのが発端

また、遠隔医療の関係で講演した、グローバル・テレメディスン・グループの社長兼CEOの、Jay H. Sanders氏は、遠隔医療(Telemedicine)の考えの発端は、1967年ボストンで、交通渋滞を避けるのが最初の考えの発端になったと紹介。患者の搬送により、搬送費のコスト削減効果が大きいと見た。

メーカー講演、ポリコムCEO ポブ・ハガティ氏

ポリコムのCEO ポブ・ハガティ氏は、講演の冒頭で、ちょうどインドへの出張から戻ってきたばかりと述べ、インドのReliance Telecomや中国のChina Unicomでの同社のビデオテレフォニーに対する取り組み状況を説明。

さらに、今後はユニファイド・コラボラティブ・コミュニケーション(Unified Collaborative Communications)は、今後のコミュニケーションの方向性を示が、その中で、テレビ会議において、独自技術よりも標準化された技術の重要性を強調した。また、ブロードバンドは生産性の向上にとって重要と指摘。

「技術はある、アプリケーションはここにある、あとはそれをつなぐ“パイプ”があれば可能性は広がる」とブロードバンドへの期待を示した。

講演前にちょっとお話させていただく機会が持てた。ポリコムというと、電話会議製品もよく知られているが、一般人から見るとテレビ会議メーカーと呼ばれることが多いような気が

がする。



ポリコム CEO ポブ・ハガティ氏

しかし、ハガティ氏と話しをしてみると、同氏の頭の中ではすでにテレビ会議メーカーという意識ではなくて、適切な言葉が見つからないが、同氏の言葉を借りて言えば、ポリコムは、電話会議やテレビ会議端末メーカーから脱皮した、“ユニファイド・コラボラティブ・コミュニケーション”ソリューションプロバイダーとして自身の会社を認識しているという印象を持った。

アメリカのブロードバンド状況

その他、他の講演者などからアメリカのブロードバンドのトレンドは以下のような説明があった。

- ・アメリカ人口の24%がブロードバンドユーザー。
- ・DSLモデムとケーブルモデムの差が縮まってきている。
- ・教育レベルが高いほどブロードバンドの利用割合は高くなる。
- ・アメリカの10%のユーザーブロードバンドを利用できないエリアに住んでいる。
- ・ダイヤルアップユーザーの6割は、今のところブロードバンドに移行する必要性を感じていない。
- ・ダイヤルアップユーザーのインターネットの利用割合は、ブロードバンドユーザーのそれに比べて低い。
- ・ダイヤルアップユーザーとブロードバンドユーザーのインターネットの利用の仕方に違いがある。ブロードバンドユーザーは、インタラクティブな利用形態が多い。

ちなみに、中国では、現在1100万のブロードバンドユーザーがいる中で、近いうちに倍になる可能性があるという。日本については、ADSLの急激な伸びとVoIPの拡大、その中でのYahooBBなどを含めた市場動向などの発表がされていた。

展示ホール



展示会場(写真を撮った時間が悪かった)

展示ホールでは、業界関係では、ポリコム、ソニー、Arel、Spectel、VBrick、InterCall、マイクロソフト(LiveMeeting)などが出展しており時間の関係上全て見ることはできなかったが(展示は20日のみでそれと平行して講演が行われていた。編集長は講演を中心に参加した。)

ポリコムでは、新製品の VSX3000、ソニーは、PCS-1 と PCS-11、Arel は同社の開発したウェブ会議ソリューション、VBrick は、ストリーミングサーバーの展示とデモを行っていた。Arel、Spectel、VBrickなどは日本市場に非常に興味を示していた。

また、アメリカの業界団体である、IMCCA (<http://www.imcca.org>)も出展していた。IMCCA は、テレビ会議、ウェブ会議、電話会議の普及を目指す任意団体だが、会長 S. Ann Earon 博士、ディレクターの Carol Zelkin 氏と話しをしたところ、今後日本とも連携した普及活動を行いたいと抱負を述べていた。この機会に編集長は IMCCA の個人会員になった。ちなみに個人会員年会費は、75USD。法人会員もある。



また、出展はしていないが、参加している業界系のメーカーや販社の方々も来場していて、意見交換等を行う機会ももてた。話題はウェブ会議が多く、「ウェブ会議は新しいコンセプトだが、マイクロソフトやシスコシステムズなどがウェブ会議等の製品を扱う始めたため認知度は高まり、今後ウェブ会議の導入が多くの企業で進むのではないか。」と期待を込めて話す、WebExとマイクロソフトのLiveMeetingをリ

セールする業界の人もいた。

取材後感想

一番印象に残った言葉は、ケンタッキー大学学長の Dr. Lee T. Todd 氏の、“ブロードバンドは経済力向上への原動力”、“国際競争力にはブロードバンドは必須”という言葉だった。同氏の発表の中で、“ケンタッキー州では、ブロードバンドを規制する法律を禁止する法律が最近州議会で通った。”ということに、思わず“アメリカらしい”と感じた。

商業的には、ブロードバンドは大きなビジネスチャンスとの見方があるが、政府や学識経験者などから見ると、ブロードバンド政策の策定に対する提言、現状の技術に対する時代遅れの政府規制に対する批判などからすると、ブロードバンドは、国力の源泉になるとの見方を持っている。

また、そういった政府や学識経験者などの見方を裏付ける現状としてアジアでのブロードバンドへの急激な普及、そして中国の経済的な台頭が上げられると思う。

(終わり)

以下会場で撮影した写真。



ソニー PCS-11



Spectel 音声MCU等メーカー エンタープライズ・セールス担当



AREL 右から 製品戦略 VP Ofer Shapiro 氏、CMO Michelle Blank 氏、左側2名は社員



VBrick EtherneTV

セミナー・展示会情報

国内

■ IP テレフォニーソリューション 2004

会期 : 平成 16 年 5 月 19 日(水)-20 日(木)

時間 : 10:00~18:00

場所 : サンシャインシティ文化会館

主催 : 日経 BP 社

<http://expo.nikkeibp.co.jp/iptel/index.shtml>

■ TANDBERG 製品を中心とする IP 映像通信会議トータルソリューションセミナー

会期 : 平成 16 年 5 月 28 日(金) 13:30~17:20
(受付開始 13:00)

時間 : 10:00~18:00

場所 : 神保町三井ビル 11 階

NTT-ME プレゼンテーションルーム

主催 : NTT-ME

<http://nttiivs.ntt-me.co.jp/seminar/2004/tandberg0528.html>

海外

■ TeleSpan's First-Quarter Update on

Teleconferencing Industry Predictions

日時: 2004 年 4 月 30 日 1:00pm(米国東部時間)

会場: 電話会議方法による

主催: TeleSpan Publishing Corporation

* TeleSpan Elliot Gold による業界予想

詳細: <http://www.telespan.com>

■ IMTC Forum 2004

日時: 2004 年 5 月 18 日-20 日

会場: 米サンノゼ、米ソニーエレクトロニクス

主催: IMTC

協賛: ソニー

* テレビ会議などのテーマを取り扱ったカンファレンス

詳細: <http://www.imtc.org/>

■ INFOCOMM 2004

日時: 2004 年 6 月 5 日(土)-11 日(金)

会場: 米アトランタ、Georgia World Congress Center

主催: ICIA

* テレビ会議専門のパビリオンなど設置。

詳細: <http://www.infocomm.org/>

■ WR Summit 2004

日時: 2004 年 7 月 14 日(水)-16 日(金)

会場: 米ボストン、The Colonnade Hotel

主催: Wainhouse Research LLC

* テレビ会議、音声会議、ウェブ会議のカンファレンス

詳細: <http://www.wainhouse.com/summit/index.html>

編集後記

以前ご案内しました、BCS Tokyo 2004(6月10日、11日青山TEPIA)は現在開催に向けて事務局で準備中です。

今年は、テレビ会議関連、音声会議、ウェブ会議関連のメーカー販社、ASPが集合し、2日間主要な製品を展示、また無料のメーカープレゼンもあります。来て見て、さわって、いろいろとメーカーや販社の方に質問してみてください。

現在販売(あるいは展示)されている製品について見に来られて、納得して帰っていただける環境が作れればと思っております。

そして、有料セッション(10日のみ)では、2会場(ジェネラル、テクニカル)に分け、ジェネラルでは、弁護士やMBA教授による、商法とIT、経営革新などのセッション、また、テクニカルでは、H.323、SIP、H.264、H.350など技術的な内容で、先端をいく国内外の専門家に講演をしていただく予定です。

実際の当日の運営は、プロのイベント企画会社が行います。オフィシャルウェブサイトは、5月10日に開設する予定です。

<http://cnar.jp> からリンクを設定します。

CNA Report Japan(シーエヌアールレポート・ジャパン)

編集長 橋本 啓介 k@cnar.jp(CNA Report Vol 6. No.8

2004年4月30日号終わり)次号 Vol 6. No.9は、2004年5

月15日頃の発行を予定しております。ありがとうございます。